

麻生ラグビースクール「あさおマインド」 第3版

「あさおマインド」の発行にあたり

私たちのスクールは40年という長い時間、ラグビーという競技とラグビーを愛する仲間たちとともに歩んできました。これまでさまざまな山あり谷ありの歴史があり、麻生ラグビースクールの今があります。これからも「次代を背負う若者づくり」というテーマのもと、ラグビーというスポーツを楽しみ、触れ合う機会やその活動の場を継続していくためにも、改めて麻生ラグビースクールとしての約束事（マインド）をスクールに関わる全ての皆さんと共有していきたいと考えています。

1. スクールテーマ

「次代を背負う若者づくり」

2. 目指すスクール

お互いを認め合い、思いやり、補完しあい、みんなでラグビーを楽しむスクール

3. 目指す若者づくり

- ①お互いの体格や性格、特徴などの違い（個性）を認めあう人間性を育む
- ②礼節を学び気持ちの良いコミュニケーションが取れる人間性を育む
- ③体をぶつけあうことができるラグビーという競技を通し心身を鍛える
- ④困難にあえども仲間と助けあいながら立ち向かえる人間性を育む
- ⑤楽しむ姿勢から物事に主体的に取り組むことのできる人間性を育む

4. コーチ（指導員）マインド

- ①スクール生の名前を覚え、彼らの存在を尊重し、指導を行う
- ②基本スキルと同じようにスポーツマンシップ、ラグビーコアバリューを教える
- ③レフリーが見ていなくとも自分でルールやディシプリンを守るフェアプレー精神を理解させる
- ④安全を最優先した指導を行う（プレーヤーの習熟度に合わせて指導を変えること）
- ⑤長所を伸ばす指導を行う（褒めることでスキル向上とスポーツマンシップへの報酬を与える）
- ⑥スクール生の意見に耳を傾ける、併せて「質問」を心がけ、彼らが考える機会を作る
- ⑦スクール生が将来的に必要なスキルの学習をする時間、全力を出し切るマインドセットの醸成を勝利のための時間よりも優先する（この世代では勝利が全てではない）
- ⑧チームの勝利や成長の名のもとにミスしたスクール生の尊厳を傷つける言動や場を厳に慎む
- ⑨スクール生は彼ら自身の喜びのためにプレーしているということを忘れない
- ⑩ワールドラグビー RugbyReady を毎年受講し、コーチとしての学びの努力を怠らない
- ⑪スクール生をグラウンドで安全に指導するため、より良いコーチングのための資格取得を心掛ける

5. スクール生（子ども）マインド

- ①グラウンドと用具、いつも応援してくれる家族に感謝する（感謝の気持ちを言葉にする）
- ②どんな時も全力を尽くす、ゴールラインまで走り切る
- ③練習してきたことをプレーする
- ④プレー中のミスは仲間を責めるよりも、大きな声ではげます、次がんばろう！を
- ⑤自分が扱われたように仲間（チームメート）を扱う、自分がされて嫌なことはしない
- ⑥チームメイトおよび相手チームの良いプレーを認め、称え合う、ナイスプレー！と声を掛ける
- ⑦決められた時間や約束は守る（元気よく挨拶して入場するなどの気持ちも大切にしよう）
- ⑧チームメイト、相手、コーチを大切に、レフリーの決定に対して決して不満を言わない
- ⑨他の人を喜ばせるためだけではなく、一番は自分自身の楽しみのためにラグビーをする
- ⑩スポーツマンシップ、ラグビーのコアバリューについて学び、実践する
- ⑪ルールを正しく覚える、競技規則に従ってプレーする
- ⑫分からないところはコーチにどんどん質問する

6. 保護者 観客マインド

- ①スクール生は彼ら自身の喜びのためにプレーしているのであって、保護者や観客の喜びのためでは無いと言うことを決して忘れないでいましょう
- ②相手に、仲間に、敬意をはらいましょう（相手なくして仲間なくして試合は成り立たない）
- ③プレーヤー、コーチ、レフリーを尊重し、特にレフリーへの攻撃はしません
- ④観客や保護者の立場でこそ、相手を尊重し、時に協力し、スクール生の手本となりましょう
- ⑤どちらのチームであっても良いプレーに対して褒めましょう
- ⑥グラウンド内の指導の現場に立ち入らないようにしましょう
- ⑦グラウンドにおいてスクール生が混乱する原因をつくらないようにしましょう
- ⑧汚い言葉を使わないようにしましょう、力の暴力、言葉の暴力の行使を非難しましょう
- ⑨スクール全体で子どもを育てるという考えを持ち、協力しながら積極的に活動に参加しましょう
- ⑩スポーツマンシップ、ラグビーのコアバリューについてスクール生とともに学びましょう
- ⑪子どもたちの鏡となるような行動をとりましょう

7. 保護者（親）コーチマインド

- ①指導の現場に親子関係を持ち込まない、フェアに平等でいること
- ②自分の子どもに対して鼻息することは決してあってはならない
- ③自分の子どもに対して厳しすぎることは健全ではない
- ④他のコーチからの助言や進言を受け止め改めるべきところは改める
- ⑤チームの子どもたちに目をむけ、あえて我が子を客観的に見て干渉し過ぎないようにする

8. 幹部・チーフコーチマインド

- ①すべてのスクール生が練習や試合に参加するための機会を平等につくり出す
- ②指導や方針はプレーヤーセンタード（スクール生を中心に考えているか）になっているか、大人の思いになっていないか常に問うこと
- ③ラグビーはプレーに参加するためにあり、コーチのためのスポーツではないことを忘れない
- ④勝負は時の運と心得て、目の前の勝利にこだわりすぎない
- ⑤勝利は誰が求めているのか、大会や試合の前こそ、いま一度自分の考えを冷静に客観視すること
- ⑥トレーニングしてきたことを評価できているか、プロセスがきちんと見えているのか問うこと
- ⑦自らのコーチングポリシーが所属するスクールの理念と合っているか、共有できているか、独りよがりになっていないかを問うこと
- ⑧スクールベスト（スクール愛）を考えての判断になっているか、特定の学年に偏っていないかを問うこと
- ⑨コーチおよびレフリーを教育、訓練するための機会をつくり、必要資格取得を支援すること
- ⑩安心して活動に参加してもらえ体制を整え、その運営に責任と喜びを持ってあたること

※本資料はこれまで私がお伝えしてきたことに日本ラグビーフットボール協会スタートコーチ講習会資料の内容を加味して作成しました。ご不明な点等ありましたらスクール幹部にお問い合わせください。

※2019年5月24日 初版、※2020年4月30日 第2版、※2021年4月17日 第3版

（参考） ラグビージャーナリスト 村上 晃一さんからのコメント
 「タッチライン際の大人たちへ」

ラグビーは試合になれば選手がすべてを判断してプレーするスポーツです。だからこそ、教育的価値が高いと認められているのです。コーチの仕事は選手が自分達で判断してプレーできるように育て、導くこと。親や観戦者はそれを温かく見守る。それがラグビーです。近年、ラグビー王国ニュージーランドですら、子どもたちの試合での野次や罵声が問題になっています。

現状を憂い、「Let Kids Be Kids」というキャンペーンが行われています。子どもは子どもでいさせてあげてほしい。ミスを叱り、レフリーに文句を言うのではなく、その奮闘をサポートし、楽しい思い出を残してあげてほしい。そんな願いが込められています。子どもたちはボールをもって走り、パスし、タックルすることが楽しくて仕方がないのです。仲間と協力して戦い、試合が終われば相手チームと友達になる。それは美しい思い出になります。その記憶の中に、ひどい言葉を刻みつけないでください。子どもたちは大人の態度を見ています。子どもたちの自主性を重んじ、レフリー、相手チーム、両チームのサポーター、すべてをリスペクトしながら、子どもたちをサポートしてください。それがラグビー精神なのですから。

※第9回ヒーローズカップパンフレットより転載